

# 映画「ガザ回廊」上映会と現地体験報告

2008年12月から続いたパレスチナ・ガザ地区における紛争によって、子どもたちをはじめ多くの市民が傷つき、その命が失われました。

現地ガザYMCAでは、スタッフとボランティアが自らの生命の危険を冒しながら、家や家族を失い、爆撃から逃れるために避難所で生活する市民のための支援活動を行っています。また、長引く避難生活で常に緊張にさらされ、おびえる子どもたちを対象に、トラウマ・ケア活動（アートワークやレクリエーションなどの心理社会的支援プログラム）も実施しています。

熊本YMCAでは1月31日(土)、中央YMCAジェーンズホールでドキュメンタリー映画『ガザ回廊』の上映会を開催しました。ゲストにJAPAC(日本パレスチナプロジェクトセンター)元事務局長の高橋正則さんを迎え、依然不安定な状態が続くガザとパレスチナ問題について考えました。



「遠い国で起こっている無関係の出来事と考えるのではなく、一人ひとりが平和のために何ができるのかを考えましょう」という総主事の堤弘雄さんの言葉で始まった上映会。ガザに暮らす人々の日常を描いたドキュメンタリー映画『ガザ回廊』の上映に続き、ガザ地区へ3度の渡航経験がある高橋さんによるガザ地区の現状についての報告も行われました。「学校へ普通に行くことさえままならない子どもたちも多い」など、実体験



元JAPACの高橋正則さん

を交えながら地図や写真とともに語られる現地の様子に、参加者は真剣に聞き入っていました。参加した江口香奈美さんは、「最近、ガザ地区について報道されることが多くなりましたが、私たちが知っている情報はほんの一部。今回は、ガザ地区について考える材料をたくさん得られました」と感想を話しました。報告会終了後、参加者は、ハトの絵が描かれた紙に映画の感想などを記入し、平和への思いを再確認しました。

## 緊急支援募金にご協力を お願いいたします

期間：3月31日(火)まで

YMCAはガザ地区で活動できる数少ないNGOとして、停戦したとはいえ予断を許さない現地での支援活動を継続しています。

最寄のYMCAへお持ちいただくか、左記口座へお振込みください。  
肥後銀行 新町支店103  
(普) 1296939  
災害支援緊急募金 理事長 吉本貞一郎  
※氏名の前に「ガザ」とお書きください。  
お問合せ：熊本YMCA ICR

TEL096135316397  
寄せられた募金は、特定公益増進法人日本YMCA同盟を通して、ガザYMCAが行う支援活動に用いられます。



YMCA国際ユースボランティアが1月の定例ミーティングで「ガザ空爆」について考える時間を持ちました。「ガザでなにが起きているか知ろう」というテーマで20分のプレゼンをしてくれたのは、インドネシアやタイのワークキャンプに参加経験のある井上佳奈さん。なぜこの地域で憎悪の連鎖が続いているのか、昨年12月から始まった空爆の状況、パレスチナ出身の友人の話などを交えながら発表し、そのあとグループディスカッションを行いました。

大学生のユースの一人は「何かをしななければならないのだろうが、一体何ができるのか皆自分からじゃない」と困惑気味でした。別の一人は「自分たちがあまりにも知らない、ということが今日分かった。憎悪の連鎖を断つには、地道な市民交流を続けるしかないのでは」と真剣な表情で語っていました。



世界をみつめ地域と共に60年

# 懐かしい顔ぶれに、思わず笑顔に 熊本YMCA学院同窓会



英太郎さん  
熊本YMCA学院老人ケア科1995年度卒。卒業後、老人介護施設に勤務した後、タレントに。テレビ、ラジオ番組、イベントで活躍中。

2009年2月8日(日)、ホテル日航熊本で行われた熊本YMCA学院同窓会。当日は卒業生と講師の方々、343名が集まりました。式は、「大村3兄妹」のパフォーマンスで華々しくスタート！2008年全日本エアロビクス選手権大会トリオの部2位の華麗な技に、参加者の視線が集中。社会人になった卒業生たちは、この日は

「学生」の姿に戻り、仲間や講師との再会を喜び、ゲーム大会を楽しんで、写真を撮影し合う姿が見られました。司会を務めたのは、老人ケア科の卒業生で、熊本を中心に活躍するタレントの英太郎さん。「在学中に、クラスのみならず阪神淡路大震災のボランティアに行ったことが心に残っています。昨年は、多くの方に情報を発信できるタレントという立場で介護福祉の情報を伝えていってほしいと、熊本県介護福祉会から特別顧問に選んでいただきました。YMCAで学んだことは今の仕事にもつながっていますし、今回の司会で、やっと学校に恩返しできた気がします」とのメッセージをいただきました。

## 虹のように輝いた28の個性



1月中の5日間4会場で、YMCA学院児童福祉教育科10期生による卒業発表会が開催されました。全5公演を終えた同科3年の山田静香さんに感想を聞きました。

「児童福祉教育科で恒例となっていた卒業発表会も10年目を迎えました。今回は『虹』をテーマに、虹のような、一つひとつの個性の素晴らしさ、個性が集まったときの大きな力、をどう表現していくか、手探り状態で取り組んできました。自分の思いを上手く伝えることができず、悔しい思いをし、涙したときもありましたが、その度に話し合いを重ね、チームワークが高まり、劇やダンス、音楽の細部にまでこだわっていくようになりました。」

すべてが順調にはいきませんでした。数々の苦勞を乗り越え、クラスが一丸となったからこそ、私たちは28人で力強い一歩を踏み、忘れられない公演を行うことができました。公演には、子どもから大人の方まで幅広くご来場いただきました。たくさんのお会いがあったこと、お客様と一体になって楽しむことができたことに感謝しています。」

